

決算報告をお届けするにあたって

東京神学大学 財務理事 長山信夫

東京神学大学2016年度決算報告を皆様にお届けするにあたり、本学の使命である伝道者養成に変わることなくご後援くださる諸教会、兄弟姉妹の祈りとお支えに心から感謝申し上げます。

さて、10年の長期財政計画は2016年度をもって終了し、新たに5年の第2次長期財政計画を皆様のご理解をいただいて進めています。第1次長期財政計画は、私学助成金全面カットという大変な危機感が背景にありました。いつ生じるかわからない定員半数割れ、そうなれば私学助成金は直ちに打ち切られます。教授会は定員削減を重ね、これを免れてきました。これ以上の定員削減はできません。明日の伝道者を育てるため献身者をこれからも送り続けていただきたいと思います。助成金削減の国の方針は一昨年度までは本学には適用されず、後援会の献身的お支えを基本に財政は健全化の道を歩むことができました。

2016年度、残念ながら後援会献金は前年度比較ではマイナスであり、私学助成金も減少しています。さらに、奨学金に関しても他の大学と違い、家族の協力を得にくい現実があります。神学生を支えるためにもこれからも諸教会、兄弟姉妹のご支援をいっそうお願いする次第です。

朽ち果てそうな教員住宅のリフォーム計画は、6年におよぶ取り組みによりキャンパス整備計画として皆様をお願いすることになりました。このために6億6400万円の資金を現有することができ、さらに5年間で3億円の募金をお願いしようとしています。後援会献金を変わらずお献げいただくことができれば、さらに将来に備えた研修センター建築へと向かうことができます。このような計画を提示しながら2016年度の決算報告をさせていただくことができ心から感謝し、喜んでおります。